

研修プログラム

◆基調講演（場所：山口県総合保健会館 2階 ホール 定員 500人）

「地域住民同士が支えあう地域について」

～全世代・全対象型の地域共生社会の創出に向けて～

講師：長崎純心大学 人文学部長 教授

長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二 氏

＜目的＞

少子高齢化・人口減少等により地域では、社会的孤立、8050問題、介護と育児に同時に直面する世帯（ダブルケア）、子どもの貧困など、既存の制度だけでは解決が困難な複合的で制度の狭間になる課題が増えてきています。

それぞれの地域で抱えるさまざまな課題に対して、子どもから高齢者まですべての地域住民が互いに支えあって解決していくための仕組みづくりには何が必要か、また、地域住民同士だけでなく、地域住民と専門職との関わりについて学び「地域共生社会」を考える機会としています。

＜講師プロフィール＞

長崎純心大学 人文学部長 教授

長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二（しおたに ゆうじ） 氏

●略歴

1993年日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科修了（修士；社会福祉学）、社会福祉士。株式会社地域計画設計、仙台大学体育学部健康福祉学科助手、長崎純心大学人文学部現代福祉学科専任講師、助教授、厚生労働省社会・援護局総務課社会福祉専門官（2002年4月から2008年3月まで）を経て、2008年4月より長崎純心大学人文学部現代福祉学科（現、地域包括支援学科）教授、2016年4月より同人文学部学部長補佐を経て、2018年4月より同人文学部学部長、同医療・福祉連携センター長（2013年10月より）

●各種委員

社会福祉推進事業評価委員会委員（厚生労働省 社会・援護局）、認定社会福祉士認証・認定機構 理事、教科用図書検定調査審議会臨時委員（文部科学省 初等中等教育局）、長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会委員、公立大学法人大阪府立大学スクールソーシャルワーク研究所 客員研究員、国立大学法人長崎大学医学部 非常勤講師、長崎市地域包括ケア推進協議会委員（副会長）等、を務める。

●専門

主な研究分野は社会福祉、特に最近の研究関心は福祉人材論、福祉システム論。

●主な著書

- ・ 『認知症高齢者が安心できるケア環境作り：実践に役立つ環境評価と整備手法』（児玉らと共編著）彰国者，2009.
- ・ 『社会調査の基礎』（後藤らと共編著）中央法規出版，2009.
- ・ 『対論 社会福祉学3 社会福祉運営』（分担執筆）中央法規出版，2012.
- ・ 『相談援助実習指導・現場実習 教員テキスト 第2版』（分担執筆）中央法規出版，2015.ほか.

「住民同士で支え合うための、つながりづくりについて」
～地区を単位とした連携による地域福祉活動～

実践報告者：①いきいきサロン友和会（光市） 代表 岡田 サトノ 氏
②油谷中央公民館運営協議会（長門市） 会長 森田 和康 氏
③NPO法人支えてネットワーク（山口市） 理事長 上村 早苗 氏

コーディネーター：長崎純心大学 人文学部長 教授
長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有 二 氏

《目 的》

近年人口減少や高齢化、家族形態の変容等により地域のつながり弱くなったことで、地域の状況、課題が認識しづらくなっています。それにより、地域福祉活動が停滞している地域も出てきています。これに対して、地域住民、地域を構成しているさまざまな関係機関団体が課題共有して連携しながら解決に向かう仕組みづくりが必要になります。今回の実践報告では、連携に焦点を当て、地域に存在する関係機関団体と連携し、地域福祉活動を行っている事例を発表してもらい、連携の重要性について皆で考えていきます。

①サロン活動から始まる、地域住民にあわせた活動について～

報告者：いきいきサロン友和会 代表 岡田 サトノ 氏

いきいきサロン友和会は、代表の岡田さんが15年前に親しい友人に声をかけ、おしゃべり会を公民館で企画したことがきっかけで始まった活動です。サロンをはじめ、子ども会や老人会などと連携して、地域のみなさんに友和会をアピールするさまざまな活動を行っています。また近年では、警察署と連携し、「うそ電話詐欺防止キャンペーン」の啓発活動を積極的に行っています。さまざまな活動をするにあたっての、ポイントなどのお話をさせていただきます。

②公民館、地区社協、学校の三者による、地域づくりの方法について～

報告者：油谷中央公民館運営協議会 会長 森田 和康 氏

油谷地区では、公民館を拠点として地域住民と小学校とが連携し、集いの場としてさまざまな活動を行っています。森田さん自身も元学校教員という強みを生かして、子ども達、地域住民と一緒に地域福祉活動を行っています。次世代を担う子ども達と活動することで、担い手養成にもつながっており、そうした視点も踏まえお話をさせていただきます。

③誰もが集える居場所づくりを基盤とした活動について～

報告者：NPO法人支えてネットワーク 理事長 上村 早苗 氏

ひきこもり支援を中心として、心身に障がいを持つ方等へ、居場所の提供や、就労体験、本人の状況に応じた支援を行っています。「心が和み安心して過ごせる所」「気軽に行って相談できる所」「出入り自由で誰でも利用できる場所」として、年齢や障がいの有無に関わらず「和の家」を活動拠点として、地域に根付いた活動を行っています。財源や人材が限られている中で、NPO法人の強みを生かして企業等とも連携しながら、どのように活動されているのかについてお話をさせていただきます。